



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月12日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東・名
 コード番号 4118 URL <https://www.kaneka.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 稔
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 IR・広報部長 (氏名) 石田 修 (TEL) 03-5574-8090
 四半期報告書提出予定日 2020年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	126,644	△14.9	2,029	△71.0	823	△85.0	437	△87.5
2020年3月期第1四半期	148,822	△2.3	7,004	△30.0	5,495	△39.9	3,491	△44.5

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 3,448百万円(158.0%) 2020年3月期第1四半期 1,336百万円(△81.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	6.70	6.69
2020年3月期第1四半期	53.53	53.45

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	650,630	354,178	50.9
2020年3月期	653,262	354,094	50.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 331,316百万円 2020年3月期 331,483百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	50.00	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	560,000	△6.9	21,000	△19.3	16,400	△18.7	10,000	△28.6
								153.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	68,000,000株	2020年3月期	68,000,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	2,774,187株	2020年3月期	2,774,049株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	65,225,922株	2020年3月期1Q	65,221,484株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

- ・当社は、2020年8月12日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10
(セグメント情報等)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

今期（2020/4－6）のトピックスは、何といたっても、新型コロナウイルスの爆発的流行（パンデミック）です。世界中でCOVID-19の恐怖が広がり、全ての産業セクターの経済活動が（ほとんど停止状態に近い）大幅な縮小を余儀なくされるという前例のない事態となりました。はかり知れない世界経済の打撃が続いています。

原油は、瞬間的ではあるが、▲37.63ドルをつけた。米国のGDP成長率は前期比年率▲32.9%という過去最大の減少幅を記録した。日本も▲27%と戦後最大の下げ幅となった。非常に深く暗い落ち込みの爪痕が世界各国に広がっています。

このような状況下、当社グループの第1四半期（2020年4月～6月）の業績は、売上高は126,644百万円（前年同期比14.9%減）、営業利益は2,029百万円（前年同期比71.0%減）、経常利益は823百万円（前年同期比85.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は437百万円（前年同期比87.5%減）となりました。

第1四半期 セグメント別売上高・営業利益 (百万円)

	売上高			営業利益		
	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	2020年 3月期	2021年 3月期	増減
Material SU	60,176	48,894	△11,281 (△18.7%)	5,590	2,855	△2,734 (△48.9%)
Quality of Life SU	38,468	29,738	△8,729 (△22.7%)	3,728	1,236	△2,492 (△66.8%)
Health Care SU	10,949	11,698	748 (6.8%)	1,905	2,298	393 (20.6%)
Nutrition SU	38,908	35,938	△2,969 (△7.6%)	1,200	827	△373 (△31.1%)
その他	320	373	53 (16.8%)	180	248	67 (37.7%)
調整額	-	-	-	△5,600	△5,436	163 (-)
計	148,822	126,644	△22,178 (△14.9%)	7,004	2,029	△4,975 (△71.0%)

今期の業績を事業ポートフォリオの視界から分析しました。その特徴は次の通りです。

第一の特徴は、研究開発資源を優先的に投入してきた先端事業群（E&I・PV・Medical・Pharma・Supplement・農業生産支援）が、コロナ禍による世界経済の大幅な縮小にも拘らず、対前年比で増収増益が継続 coming していること。そして、第二には、Material SUとQOL SUに属するコア事業群（Vinyl・MOD・MS・Foam・Fiber）では、需要がコロナ感染拡大により消滅し減産に追い込まれました。そのことが今期の大幅な減収減益の最大の原因でした。

最近の米国化学協会の発表や世界の製造業の景況感調査によれば、世界の化学セクターは、このコロナ禍で他の製造業と同様に生産が縮小しましたが、減産は3月をボトムに4、5月は縮小し6月は増加に転じたことが報じられています。

因みに、当社も、減産していたMaterial SUやQOL SUに属するコア事業群が5月を底に6月から増産に転じています。

直ぐにはコロナ前のレベルに戻らないでしょうが第3Q、第4Qには緩やかな足取りでコア事業群の生産は回復し、増産による年間の収益改善を見込んでいます。

尚、このコロナ禍を内なるパラダイムチェンジの好機と捉え、R&Bの「選択と集中」やリモートワークを一例とする新しいワークカルチャーの導入など下半身強化による生産性の向上に取り組んでいます（経費削減：今期5億円）。

各セグメントの状況は次のとおりです。

① Material Solutions Unit

- PVC・か性ソーダ：インドのロックダウンの影響で減収減益。
- MOD・MS：欧州・米国の需要落ち込みで減収減益。
- MX：用途開発が進み、能力増強設備が予定通り稼働。
- PHBH：多くの国内外ブランドホルダーとの共同開発が順調に進展。20,000 t 量産プラント建設決定に向け、生産性向上、コストダウンの最終検討を進めている。

② Quality of Life Solutions Unit

- Performance Fibers：頭髮はアフリカのロックダウンで需要大幅減少。パイル・難燃もコロナ禍で需要低調。
新設のガーナの商品開発センターを活用し早期販売回復を目指す。
- Foam & Residential：EPS、押出しボードは魚箱、建築土木減で低迷。エペランは世界的自動車減産で影響大。
- PV：住宅向け高効率太陽電池は販売堅調。
ビル、自動車向け壁面・シースルー太陽電池の共同開発を推進。
- E & I：PI・GSでスマホの緩やかな回復。OLED・5G向け独自製品の開発を強化。

③ Health Care Solutions Unit

- Medical：カテーテルはコロナ禍で販売は一時的停滞も回復基調。塞栓コイル好調で、米国でも販売予定。
現状比3倍のベトナム工場能力増強決定。
新規医療領域での技術・資本提携を積極展開中。
培養CAL法を用いた乳房再建治療をスタート。
- Pharma：大阪合成、KEGTの能力増強が事業拡大に貢献。コロナ対応としてアビガンの原薬供給、検査試薬の供給をスタート。
プラスミドDNA最先端高度技術でアンジェス社のワクチン中間体の生産受託。
- 感染症をドメインとするインフェクション研究チームを立ち上げ。

④ Nutrition Solutions Unit

- Foods：外食、インバウンド減によるパン・菓子需要低迷。中食増でカネカサンスライス好調。乳製品販売堅調、有機酪農を開始。別海（北海道）で酪農農業生産法人を設立。
- Supplement：未病意識の高まりで米国でQH好調。
乳酸菌は欧州好調で米国でも販売開始。
科学的な情報発信を強化し多様なサプリメントによるブランド戦略を展開。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期末の総資産は、売掛金の減少等により前期末に比べて2,631百万円減の650,630百万円となりました。負債は、買掛金の減少等により2,714百万円減の296,452百万円となりました。また、純資産は、その他有価証券評価差額金の増加等により83百万円増の354,178百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①世界経済の見通し



コロナ禍の影響は第1四半期をボトムに、第2四半期より緩やかに回復に転じ、2021年後半から本格的に回復すると見る。

②2020年度連結業績予想

当期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	前期実績 2020年3月期	業績予想 2021年3月期	増減
売上高 (百万円)	601,514	560,000	△41,514
営業利益 (百万円)	26,014	21,000	△5,014
経常利益 (百万円)	20,166	16,400	△3,766
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	14,003	10,000	△4,003
1株当たり当期純利益 (円)	214.70	153.31	△61.39

為替レート、原料価格につきましては、108円/米ドル、120円/ユーロ、
国産ナフサ価格28,000円/KLを想定しております。

※上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の
業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

セグメント別業績予想

(億円)

	売上高			営業利益		
	前期実績 2020年 3月期	業績予想 2021年 3月期	増減	前期実績 2020年 3月期	業績予想 2021年 3月期	増減
Material SU	2,418	2,155	△263	206	155	△51
Quality of Life SU	1,548	1,366	△182	142	94	△48
Health Care SU	464	525	61	89	115	26
Nutrition SU	1,574	1,544	△30	56	53	△3
その他	11	10	△1	5	6	1
調整額	-	-	-	△239	△213	26
計	6,015	5,600	△415	260	210	△50

- コロナ禍で生産停止したコア事業群（Vinyl・MOD・MS・Foam・Fiber）は第3Q、第4Qには緩やかに生産回復し、増産による年間収益の改善を見込んでいる。
- 当社の成長を牽引していく先端事業群（E&I・PV・Medical・Pharma・Supplement・農業生産支援）は引き続き堅調な収益拡大を見込む。
- R&Bの「選択と集中」やリモートワークを一例としたバックオフィス機能の強化など高い生産性の事業運営に取り組む。（経費削減30億円）

③2021年3月期配当予想

- 上記2020年度業績見通し及び安定的な利益還元継続という基本方針のもと年間100円を据え置く（中間50円、期末50円）。

④2022年度への成長

- 2021年度後半からの生産活動はコロナ前の水準を取り戻す。
- コロナ禍を契機として急速に社会のパラダイムシフトが進むなか先端事業群（E & I・Medical・Pharma・PV・Supplement等）を戦力強化する。PHBHなど注目大型新規事業群に経営資源を重点化投入しR&Bの果実刈り取りを加速させる。
- コア事業群（Vinyl・MOD・MS・Foam・Fiber・Foods）がユニークな事業特性を磨き、事業基盤として経営を支える強いプラットフォームを構築する。
- 大型新規事業
PHBH：
久々の大型事業である。数ある新規事業群のなかで集中的に経営資源を投入する。
当社の2つの技術源流（酵母発酵技術と高分子ポリマー技術）をユニークに組み合わせる技術開発を急ぎ、早期に大型商業運転を実現する。
- 経営のDX化を急ぐ
経営資源の効率的な投入により、強靱な企業体質へ転換する。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	38,748	43,586
受取手形及び売掛金	134,110	118,592
有価証券	190	182
商品及び製品	66,057	66,823
仕掛品	8,727	9,417
原材料及び貯蔵品	42,474	43,412
その他	17,852	18,612
貸倒引当金	△1,303	△1,332
流動資産合計	306,858	299,294
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	84,012	85,921
機械装置及び運搬具（純額）	110,073	109,086
その他（純額）	68,970	70,125
有形固定資産合計	263,056	265,133
無形固定資産		
のれん	3,306	3,190
その他	9,874	9,798
無形固定資産合計	13,180	12,989
投資その他の資産		
投資有価証券	48,548	51,874
その他	21,859	21,579
貸倒引当金	△241	△240
投資その他の資産合計	70,166	73,213
固定資産合計	346,403	351,336
資産合計	653,262	650,630

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	73,509	61,353
短期借入金	88,835	96,284
未払法人税等	2,408	1,570
引当金	107	13
その他	46,739	50,056
流動負債合計	211,599	209,278
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	33,293	33,451
引当金	317	328
退職給付に係る負債	38,308	37,961
その他	5,648	5,432
固定負債合計	87,568	87,174
負債合計	299,167	296,452
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	30,962	30,961
利益剰余金	280,265	277,419
自己株式	△11,583	△11,583
株主資本合計	332,691	329,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,246	16,527
繰延ヘッジ損益	△103	△107
為替換算調整勘定	△7,395	△7,342
退職給付に係る調整累計額	△7,956	△7,605
その他の包括利益累計額合計	△1,208	1,472
新株予約権	482	486
非支配株主持分	22,128	22,374
純資産合計	354,094	354,178
負債純資産合計	653,262	650,630

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	148,822	126,644
売上原価	107,029	91,694
売上総利益	41,793	34,950
販売費及び一般管理費	34,788	32,920
営業利益	7,004	2,029
営業外収益		
受取配当金	720	700
持分法による投資利益	33	16
その他	173	166
営業外収益合計	927	882
営業外費用		
支払利息	470	347
固定資産除却損	381	419
為替差損	575	249
その他	1,010	1,073
営業外費用合計	2,437	2,089
経常利益	5,495	823
特別損失		
訴訟関連費用	463	95
特別損失合計	463	95
税金等調整前四半期純利益	5,031	727
法人税、住民税及び事業税	1,746	1,054
法人税等調整額	△487	△952
法人税等合計	1,258	102
四半期純利益	3,772	625
非支配株主に帰属する四半期純利益	280	188
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,491	437

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	3,772	625
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△785	2,331
繰延ヘッジ損益	△17	△4
為替換算調整勘定	△1,831	140
退職給付に係る調整額	201	352
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	3
その他の包括利益合計	△2,435	2,823
四半期包括利益	1,336	3,448
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,170	3,117
非支配株主に係る四半期包括利益	166	331

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	60,176	38,468	10,949	38,908	148,502	320	148,822	—	148,822
セグメント間の 内部売上高又は振替高	252	3	—	5	260	285	546	△546	—
計	60,429	38,471	10,949	38,913	148,763	606	149,369	△546	148,822
セグメント利益	5,590	3,728	1,905	1,200	12,424	180	12,605	△5,600	7,004

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	12,424
「その他」の区分の利益	180
セグメント間取引消去	4
全社費用(注)	△5,623
その他の調整額	18
四半期連結損益計算書の営業利益	7,004

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	48,894	29,738	11,698	35,938	126,270	373	126,644	—	126,644
セグメント間の 内部売上高又は振替高	213	6	—	7	227	271	499	△499	—
計	49,108	29,745	11,698	35,946	126,498	645	127,144	△499	126,644
セグメント利益	2,855	1,236	2,298	827	7,217	248	7,466	△5,436	2,029

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	7,217
「その他」の区分の利益	248
セグメント間取引消去	5
全社費用(注)	△5,440
その他の調整額	△1
四半期連結損益計算書の営業利益	2,029

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。